

国内・国際	政治・行政	財政・経済	社会・文化	その他
1. 20 第40代米大統領にロナルド・レーガンが就任。（『神奈川年鑑1981』）	1. 13 知事、本県選出国議員の懇談会が開かれ、高校建設、基地問題、暴走族対策などで意見交換。（『神奈川新聞』）	1. 16 税務署別最高路線価格のトップは横浜駅西口で、1平方㊦当たり165万円で全国3位。（『神奈川新聞』）	1. 3 正月三が日の初もうで客は県警調べによると603万人で昨年比約66万人の大幅増。川崎大師289万人、鶴岡八幡宮204万人、寒川神社28万人。（『神奈川新聞』）	1. 9 米海兵隊員を乗せた米軍艦3隻がノース・ドッグに入港。軍用トラックなど車両300台、海兵隊員約800人が上陸後、東富士演習場に向かう。（『神奈川年間1981』）
3. 16 第2次臨時行政調査会発足、会長に元経団連会長の土光敏夫。（『神奈川年鑑1981』）	1. 16 県環境影響評価審議会は、環境アセスメントの基本となる「技術方針」の基本的な考え方をまとめた。（『神奈川新聞』）	1. 17 県水試は相模湾水産振興事業団に真鯛の養殖実験を委託。（『神奈川新聞』）	1. 18 横須賀にある海洋科学センターの潜水調査船「しんかい2000」が完成。（『神奈川新聞』）	2. 4 米軍機墜落事故訴訟の第1回口頭弁論が横浜地裁で開かれた。（『神奈川新聞』）
3. 30 レーガン米大統領が、ピストルで左胸を撃たれる事件が起こる。（『神奈川年間1981』）	1. 19 宮ヶ瀬ダム建設の第1回補償交渉が関係住民組織と始まった。（『神奈川新聞』）	1. 28 東電は川崎の東扇島にLNGを燃料とする新火力発電所を建設するため、川崎市に環境影響評価報告書を提出。（『神奈川新聞』）	1. 24 上海市曲技団の横浜公演が始まり曲芸パンダ妙技を披露。（『神奈川新聞』）	3. 3 横浜港の米陸軍横浜ノースドッグについて、衆院予算委にて渡辺防衛施設庁長官は「返還は難しい状況」と答弁。（『神奈川新聞』）
4. 23 県、米メリーゴランド州との姉妹提携調印式。（『神奈川年鑑1981』）	2. 5 県都市計画地方審議会は横浜の総合公園、相鉄大和駅の地下化など24件を可決、国に認可申請。（『神奈川新聞』）	3. 4 横浜港大黒ふ頭に2つ目のコンテナバース「大黒C2」が完成。（『神奈川新聞』）	6. 2 横浜開港資料館が旧英国領事館跡地にオープン。開館式にはマンスフィールド米国大使、バン・ホーテンオランダ大使が出席。（『神奈川新聞』）	3. 4 相模原市の米軍医療センター跡が4月1日付けで全面返還されることが決まった。三分割有償処分、同市は教育、文化施設を計画。（『神奈川新聞』）
4. 26 来日中のデンマークのマルグレーテII世王女夫妻が横浜訪問。ゆかりのあるデンマーク船員教会と三溪園に訪問。（『神奈川年鑑1981』）	2. 6 条例や規則に使われている不快用語の追放を県、横浜、川崎で申し合わせ。（『神奈川新聞』）	3. 31 国土庁の全国地価の公示によると本県の平均アップ率は12.4%で全国最高。（『神奈川新聞』）	6. 21 アマ将棋名人戦県予選で、公務員の宮沢巧五段が初優勝。（『神奈川新聞』）	4. 1 米海兵隊を乗せた輸送艦と揚陸艦の2隻がノース・ドッグに入港。約900人が演習地キャンプ富士に向かった。（『神奈川新聞』）
5. 3 韓国第12代大統領に全斗煥が就任。（『神奈川年鑑1981』）	2. 10 海上自衛隊に潜水艦隊が設けられ司令部が横須賀市に置かれた。（『神奈川新聞』）	3. 31 有料道路「南横浜バイパス」の狩場～日野間が開通。（『神奈川新聞』）	7. 18 野口英世博士が青年時代に勤務した横浜市金沢区の横浜検疫所細菌検査室を初めて一般公開。（『神奈川新聞』）	5. 19 知事はライシャワー発言の事実解明などを求める要請文を首相や閣僚大臣に提出した。（『神奈川新聞』）
5. 15 横浜港とカナダ・バンクーバー港との姉妹港調印が行われた。（『神奈川年鑑1981』）	3. 23 県はカラオケ騒音を取り締まるために条例改正の方針を固めた。（『神奈川新聞』）	4. 3 首都高速道路公団が横浜ベイブリッジの事業計画を発表。（『神奈川新聞』）	7. 22 葉山町は御用邸・附属邸跡地を「葉山花の木公園」とする構想を明らかにし、宮内庁に説明した。（『神奈川新聞』）	6. 5 米空母ミッドウェーが米海軍横須賀基地に帰港。核積載の疑いから1万人の抗議集会やデモが行われる。（『神奈川年間1981』）
6. 22 臨時行政調査会が報告書を提出。国家公務員の定員を57年度から5年間で5%削減を打ち出す。（『神奈川年鑑1981』）	3. 30 県は横浜防衛施設局の「次期対潜哨機P3C厚木配備計画」に伴う計画通知に対し合意。（『神奈川新聞』）	4. 25 東名高速道路の「秦野・中井インターチェンジ」開通。（『神奈川新聞』）	7. 26 「かながわオープンゴルフ」で泉川ピートが初優勝。（『神奈川新聞』）	6. 9 来日中のエルズバーク博士が横須賀市で開かれた市民集会で「ミッドウェーの核持ち込みは確実」と指摘。（『神奈川新聞』）
7. 10 臨時行政調査会は行財政改革に関する一次答申を首相に提出。歳出削減策が中心で行政全般にわたる改革を求めた。（『神奈川年鑑1981』）	4. 10 平塚市内の旧農林省果樹試験場の跡地が平塚市に売却と無償貸し付けされることになった。（『神奈川新聞』）	5. 1 県は「県小売商業調整に関する要綱」を施行、小型スーパー、ストアの出店に伴う紛争防止へ。	7. 31 「夏の甲子園」県代表は昨年に続き横浜高に決まる。（『神奈川新聞』）	6. 17 横浜地裁民事一部で争われている「厚木基地爆音訴訟」が結審。（『神奈川新聞』）
7. 22 集中的な豪雨で横浜を中心に県内3万戸が停電。200戸が浸水。（『神奈川年鑑1981』）	4. 22 鶴見川の流域整備計画が決まる。5年間に1000億円を投入。（『神奈川新聞』）	5. 8 横浜市営バスと地下鉄の運賃値上げを認可。市バスは均一130円、地下鉄の初乗りは120円に。（『神奈川新聞』）	8. 1 全国高校総体が横浜・三ツ沢陸上競技場で開幕した。（『神奈川新聞』）	6. 26 米海軍横須賀基地に入港していた米空母ミッドウェーが午前11時ごろ出港。出港に際して海上デモや抗議集会が行われた。（『神奈川年間1981』）
9. 2 第5回日米関係民間会議（下田会議）が3日間の日程で、大磯プリンスホテルで開催。（『神奈川新聞』）	4. 28 県は知事を座長とする神奈川の教育を考える進路協議会を新設。（『神奈川新聞』）	7. 20 横浜市は三菱重工横浜造船所跡地を中心とした「都心臨海部総合整備計画」の基本計画を発表。（『神奈川新聞』）	8. 14 島崎藤村が晩年を過ごした藤村邸が大磯町へ寄贈された。（『神奈川新聞』）	6. 28 米軍礮子弾薬庫跡地に米軍人用住宅の建設計画が明らかに。（『神奈川新聞』）
10. 29 行革関連特例法案が衆院本会議で賛成多数により可決。（『神奈川年鑑1981』）	5. 25 県は情報公開に向け「情報提供制度検討委員会」を発足させた。（『神奈川新聞』）	8. 4 県は経営住宅の家賃を平均21.9%値上げすることを決めた。（『神奈川新聞』）	8. 18 横浜市内の身障者ら420人を乗せた「交流の船」が沖繩へ。（『神奈川新聞』）	7. 30 横浜、三浦両市にまたがる米海軍長井住宅区と軍施設の一部の返還が正式に決まった。（『神奈川新聞』）
11. 28 行革関連特例法案が参院本会議で可決、成立。（『神奈川年鑑1981』）	6. 26 長洲知事が22日の第二臨調部会報告について「国の負担を地方に回すのは容認できない」などの意見書を手渡す。（『神奈川新聞』）	9. 9 横浜・川崎両人事委員会は平均5.12%の給与引き上げを勧告。（『神奈川新聞』）	9. 4 日本の代表的物理学者・故長岡半次郎博士の業績をしのぶ記念館が横須賀市長浜に完成した。（『神奈川新聞』）	10. 13 米海軍鶴見石油廠小柴貯油施設タンクが爆発。（『神奈川年間1981』）
	7. 1 県環境アセスメント条例が施行された。（『神奈川新聞』）	10. 5 「横浜市都心臨海部総合整備計画」の愛称が「みなとみらい21」と決まる。（『神奈川新聞』）	11. 6 葉山御用邸の落成式が、宮内庁長官らが出席して行われた。（『神奈川新聞』）	10. 27 米菓兵隊を乗せた米艦隊LSDが横浜港のノース・ドッグに寄港。（『神奈川新聞』）
	8. 29 宮ヶ瀬ダム建設の補償交渉がまとまり、「損失補償基準」の調印式が清川村で行われた。（『神奈川新聞』）	11. 20 国鉄横浜駅の東西口を結ぶ自由地下通路が全面開通した。（『神奈川新聞』）	11. 6 横浜大洋球団は来季の新監督に評論家関根順三の就任を発表。（『神奈川新聞』）	
	9. 3 県都市計画地方審議会が、港北ニュータウンの公園・緑地に関する計画などを原案通り了承。（『神奈川新聞』）	12. 14 横浜市の新交通システム「金沢シーサイドライン」導入決定。（『神奈川新聞』）	11. 13 ロッテ球団は新監督に山本一義の就任を発表した。（『神奈川新聞』）	
	9. 30 三浦市のヨット・モーターボート税が廃止された。（『神奈川新聞』）	12. 22 長洲知事、細郷・横浜、伊藤・川崎市長の3首長は新横浜－川崎－羽田を結ぶ新交通建設で合意。（『神奈川新聞』）	11. 24 県の「かながわむかしばなし五十選」が決まり発表された。（『神奈川新聞』）	
	11. 3 海上自衛隊の観艦式が江の島沖の相模湾で行われた。（『神奈川新聞』）		11. 29 横浜市主催の第1回横浜マラソンが開かれ、2100人が参加した。（『神奈川新聞』）	
	12. 25 次期主力対潜哨戒機P3Cオライオン1陣3機が厚木基地へ。（『神奈川新聞』）		12. 11 南極観測船「しらせ」の進水式が横浜市鶴見区の日本鋼管製造所で行われた。（『神奈川新聞』）	

国内・国際	政治・行政	財政・経済	社会・文化	その他
2. 8 ホテルニュージャパン火災(『神奈川年鑑1982』)	2. 10 県は総額1兆1477億6200万円(対前年度比6%増)にのぼる57年度当初予算案を発表。(『神奈川新聞』)	3. 18 シルクホテルが3月いっぱい閉鎖されることが定期役員会で正式に決まった。(『神奈川新聞』)	2. 1 第54回選抜高校野球大会の出場校に、横浜商業高校が決まる。(『神奈川年鑑1982』)	1. 19 綾瀬市会、防衛庁が厚木基地内に計画する燃料タンク増設に反対、計画の変更を求める意見書を全会一致で可決。(『神奈川新聞』)
2. 9 日航機羽田沖墜落事故(『神奈川年鑑1982』)	3. 25 神奈川婦人の地位向上プラン策定委員会は、女性の地位向上をめぐる基本構想案と基本計画案をまとめ長洲知事に答申。(『神奈川新聞』)	4. 5 国鉄茅ヶ崎駅ビルの建設母体となる湘南ステーション開発会社の設立総会が開かれ、再開発計画が動き出した。(『神奈川新聞』)	4. 27 東京湾岸自治体公害対策会議がまとめた56年度東京湾岸環境調査によると、透明度は過去5年で最低。(『神奈川新聞』)	1. 26 横浜市緑区で起きた米軍機墜落事故(52年9月)で被災し療養生活を続けていた母親が死去。(『神奈川新聞』)
3. 18 川崎市内の公害患者とその遺族109名が、東京電力や日本鋼管、国などを相手取り、大気汚染物質排出の差し止めと健康被害に対する総額24億円余の損害賠償を求める訴えを横浜地裁川崎支部に起こした。	4. 16 「神奈川の教育を推進する県民会議」が発足。(『神奈川新聞』)	5. 26 稲の葉や根を食い荒らす害虫「イネミズゾウムシ」が、葉山町を中心にした三浦半島の水田で大量発生。(『神奈川新聞』)	7. 14 横浜を中心とした県下の小学校でシラミが猛威をふるっていることが判明。被害児童は市内だけで1300人前後を推定。(『神奈川新聞』)	3. 1 横浜市緑区米軍機墜落事故の被災者が、国と米兵に押し起こしている民事訴訟で、米兵代理人の2弁護士が横浜地裁に辞任届を提出していることが原告代理人らに通知された。(『神奈川年鑑1982』)
3. 21 北海道浦賀沖地震(『神奈川年鑑1982』)	4. 22 県勤労婦人問題協議会は、勤労婦人の地位向上を図る目的で報告書を知事に提出。(『神奈川新聞』)	7. 18 川崎市川崎区の日石化学川崎工場のプタジエンプラントが爆発、燃料ガスなどが約2時間半にわたって延焼。(『神奈川新聞』)	7. 28 津久井町で「緑と水の創造シンポジウム」が開かれ、横浜など「津久井の水」を使う市民も参加、水源地住民と交流。(『神奈川新聞』)	3. 31 横浜市中区の横浜海浜住宅地区、新山下地区の全域と根岸住宅地区の一部の米軍住宅三施設が返還。(『神奈川新聞』)
4. 2 アルゼンチンが英領フォークランド諸島を軍事占領。(『神奈川年鑑1982』)	5. 20 長洲知事、臨時行政調査会の土光会長に県作成「地方行政システム改革に関する意見—地方からの具体的提言」を提出。(『神奈川年鑑1982』)	8. 11 運輸省港湾審議会が横浜港の新港湾計画が計画案通り了承され、再開発計画「みなとみらい21」が始動。(『神奈川年鑑1982』)	7. 31 夏の高校野球県大会決勝で、法政二高が3-0で日大高を下し優勝。(『神奈川新聞』)	4. 19 米軍から返還された横浜海浜住宅地区を中心とした再開発計画で、約400人の地権者全員が、本格的な街並み統一を根ざす建築協定を締結。(『神奈川新聞』)
6. 14 アルゼンチン軍が英軍に降伏し、フォークランド紛争が終わる。(『神奈川年鑑1982』)	5. 31 第7回六都県市首脳会議(首都圏サミット)が開催。東京湾二次汚濁の原因となる窒素、リンの削減指導に共同歩調で取り組むことを合意。(『神奈川新聞』)	10. 1 県が公告した県下の地価は総平均15万4千円(1平方メートル)。住宅地の上昇率は5.2%と53年並みに頭打ちの傾向。(『神奈川新聞』)	8. 18 神奈川新聞社が主催した環境シンポジウム「都市と緑—快適な環境を求めて」が19日にかけて横浜国際会議場で開かれ、内外の学者や市民延べ約500人が参加。(『神奈川新聞』)	5. 20 横浜市緑区米軍機墜落事故被災者の故・土志田和枝さんの闘病記「あふれる愛に」が刊行。(『神奈川年間1982』)
8. 2 大型台風10号が渥美半島に上陸、中部、北陸地方を横断。(『神奈川年鑑1982』)	6. 9 国連アジア太平洋都市会議(YLAP)が横浜で開かれ、16都市の代表が快適な都市づくりをテーマに討論。(『神奈川新聞』)	11. 17 シルクホテルが累積赤字など負債整理のため、民間貸しビル会社に売却された。(『神奈川新聞』)	9. 12 台風18号により、鎌倉でがけ崩れのため夫婦が死亡したのははじめ県下で死者4名、負傷18名、家屋全半壊26戸などの被害。	8. 5 綾瀬市蓼川地区の地主ら97人が、米軍厚木基地内の土地返還を求め横浜地裁に提訴。(『神奈川新聞』)
10. 12 鈴木首相が退陣表明。(『神奈川年鑑1982』)	7. 1 川崎市は、高津区から宮前区、多摩区から麻生区を分区。(『神奈川新聞』)	11. 20 横浜駅の東西口を結ぶ自由地下通路が全面開通。	10. 5 神奈川文化賞、スポーツ賞が寺田透氏(文学)らに決まる。11月3日、贈呈式が行われた。(『神奈川新聞』)	8. 26 米軍池子弾薬庫(逗子市、一部は横浜)に米軍住宅を建設する為の調査開始通知が、横浜防衛局から県と逗子市に提出される。(『神奈川年鑑1982』)
11. 11 ソ連・ブレジネフ共産党書記長が急死。(『神奈川年鑑1982』)	8. 19 東京湾横断道路の建設が建設省第9次道路整備五カ年計画案に正式に盛り込まれ、62年度までに着工される見通し。(『神奈川新聞』)		10. 28 第1回かながわ環境文化賞の表彰式が行われ、三浦半島自然保護の会に賞状、賞金が贈られた。(『神奈川新聞』)	10. 20 厚木基地爆音訴訟の判決公判が横浜地裁で開かれ、米軍機などの夜間飛行差し止め請求を却下。損害賠償については請求の一部を認める。(『神奈川新聞』)
11. 12 ユーリ・アンドロポフがソ連共産党書記長に就任。(『神奈川年鑑1982』)	9. 3 県は58年4月に県立高校17校を開校すると発表。中学卒業生が前年より1万7千人も上回るための措置。(『神奈川新聞』)		11. 11 地方自治体の国際交流をテーマにした「地方の時代シンポジウム」が横浜で開かれ、全国の自治体関係者約250人が参加。(『神奈川新聞』)	12. 15 大和市内で米軍機が墜落した事故(39年)の補償問題をめぐって争われていた裁判で、国と原告との間に和解が成立。(『神奈川新聞』)
11. 22 レーガン米大統領がソ連指導部に偶発戦争回避を呼びかける書簡を送る。(『神奈川年鑑1982』)	9. 10 細郷横浜市長は市会本会議で、港北、緑、戸塚区の分区を検討していることを明らかにした。(『神奈川新聞』)		11. 23 緑の地球防衛基金による国際シンポジウムが開かれ、「地球的な規模で進む森林破壊と砂漠化現象に敏速な対応を」とする横浜決議が採択された。(『神奈川新聞』)	
11. 26 中曽根康弘自民党総裁が衆参両院本会議で第71代内閣総理大臣に指名される。(『神奈川年鑑1982』)	10. 7 県民の知る権利を保障する情報公開条例案が県会本会議で可決。都道府県では全国初。(『神奈川新聞』)		11. 30 国の重要文化財である称名寺(横浜市金沢区)の発掘調査で、庭園参道部分の橋や島の遺構が見つかる。(『神奈川年鑑1982』)	
	11. 1 県、女性の自立と社会参加を促進するための施設として、婦人総合センターを江の島に開館。初代館長に金森トシエ。(『令和元年度事業概要 かなテラス』)			
	12. 8 県メリーランド州友好委員会が発足。去年4月の県と同州との友好提携を民間主導でさらに推進するのがねらい。(『神奈川新聞』)			
	12. 8 長洲知事は県会本会議で「高校建設は百校で打ち止め、65年以降は、空いた校舎を地域のコミュニティーセンターとして活用」と述べる。(『神奈川新聞』)			

国内・国際	政治・行政	財政・経済	社会・文化	その他
5. 12 県と中国・遼寧省の友好提携調印式が県庁大会議場で行われた。（『神奈川新聞』）	1. 11 長洲知事は地域に根ざした医療と福祉の充実などを掲げた「改定新神奈川計画」を決定した。（『神奈川新聞』）	3. ー 三菱重工が横浜造船所を閉鎖し、本牧・金沢工場に移転。（『神奈川新聞』）	1. 21 小説家里見淳が鎌倉市内の病院で死去。（『神奈川年鑑1983』）	5. 25 米海軍厚木基地隣接の日本飛行機厚木製作所で早期警戒機E2Bホークアイの整備作業中、突然爆発。作業をしていた4人が死亡、1人が重体。（『神奈川新聞』）
6. 26 第13回参議院議員通常選挙。比例代表制が初導入。（『神奈川年鑑1983』）	1. 25 県は緑の保全事業を盛り込んだ「かながわ都市緑化計画」をまとめた。（『神奈川新聞』）	5. 12 横浜市内の一般加入電話が100万台に。東京都、大阪府に次ぎ全国3番目。（『神奈川新聞』）	3. 1 文芸評論家小林秀雄が死去。（『神奈川年鑑1983』）	5. 31 核巡航ミサイル・トマホーク搭載の米戦艦ニュージャージーの横須賀寄港問題で、県渉外部は日本寄港が考えられるという米大使の回答文書を公表。（『神奈川新聞』）
8. 8 県西部を震源とするM5.8規模の地震発生。（『神奈川年鑑1983』）	1. 29 県の58年度当初予算案が発表されたが、一般会計の伸びは前年の1.1%と戦後最低。不況直撃型。（『神奈川新聞』）	8. 9 横浜ベイブリッジの橋脚の基礎となるコンクリートパージが金沢埋め立て池から本牧ふ頭A突堤まで運ばれた。（『神奈川新聞』）	3. 31 小説家尾崎一雄が小田原市内で死去。（『神奈川年鑑1983』）	7. 20 防衛施設庁は県知事と逗子市長に対し「池子弾薬庫は米軍住宅建設の適地であるとの結論に達した。住宅千戸程度の関連施設を建設したい」と文書で通知。（『神奈川新聞』）
8. 21 フィリピンの野党指導者ベニグノ・アキノが帰国直後に銃撃され死亡。（『神奈川年鑑1983』）	2. 14 県は環境の保全と創造をねらった「かながわ環境プラン」を発表。（『神奈川新聞』）	9. 30 県発表7月1日現在の地価調査によると、住宅、商業、準工業地などの総平均は1平方メートル当たり19万2200円。（『神奈川新聞』）	4. 5 選抜高校野球大会決勝、横浜商が徳島県の池田高校に0-3で敗れ準優勝。（『神奈川年鑑1983』）	7. 28 横浜市金沢区柴町の米軍貯油施設・燃料タンクが爆発炎上した事故で、県警と米海軍が調査結果を発表。発火原因については特定できずとの結論。（『神奈川新聞』）
9. 1 大韓航空機がサハリン上空でソ連戦闘機に撃墜され、乗客乗員269人が死亡。（『神奈川年鑑1983』）	4. 1 県、情報公開条例が施行。（『神奈川新聞』）	10. 8 横浜駅東口再開発の中核となる横浜新都市センタービル（仮称）の起工式が同駅東口で行われた。（『神奈川新聞』）	6. 8 評論家羽仁五郎が藤沢市内で死去。（『神奈川年鑑1983』）	8. 23 厚木基地滑走路北側で米空母ミッドウェーのA7Eコルセア機が着陸時にオーバーラン。フェンスの50メートル近く手前で停止。（『神奈川新聞』）
10. 5 ノーベル平和賞にポーランド自主管理組織「連帯」のレフ・ワレサが選ばれる。（『神奈川年鑑1983』）	4. 11 統一地方選挙、長洲一二が神奈川県知事に再選。（『神奈川新聞』）	11. 8 「みなとみらい21」事業の起工式が計画地域の三菱重工横浜造船所跡地で行われた。（『神奈川新聞』）	7. 30 高校野球神奈川大会決勝戦が行われ横浜商が3-1で横浜高を破って優勝、甲子園への神奈川代表となった。（『神奈川新聞』）	10. 12 厚木基地騒音訴訟の控訴審が進められている東京高裁民事十五部の田中永司裁判長らが現地検証を行った。（『神奈川新聞』）
10. 9 ビルマ訪問中の全斗煥韓国大統領らを狙った爆弾テロ事件が発生。（『神奈川年鑑1983』）	6. 8 9回目の六都県市首脳会議（首都圏サミット）が横浜で開かれ、首都改造の推進で基本的に合意。（『神奈川新聞』）	11. 10 シルクホテルの乱脈経営をめぐる問題で県警は前社長を公正証書原本不実記載、同行使の疑いで逮捕。（『神奈川新聞』）	8. 21 第65回全国高校野球選手権大会の決勝戦、横浜商は大阪代表のPL学園に3-0で破れ準優勝。（『神奈川新聞』）	12. 21 米空母ミッドウェーの乗組員が潜水用のエアボンベに乾燥大麻3.7グラムを隠し日本に持ち込んで密売しようとしたのが明らかになった。（『神奈川新聞』）
11. 9 レーガン米大統領夫妻が来日、中曽根首相と首脳会談。（『神奈川年鑑1983』）	6. 29 横浜市の局長5人に支給された特殊勤務手当は違法、と訴えていた訴訟で横浜地裁は「手当返還」を言い渡した。（『神奈川新聞』）		8. 31 誘致合戦が繰り広げられていた運輸省航海訓練所の練習帆船「日本丸」の横浜誘致が正式に決まる。（『神奈川新聞』）	
11. 23 中国共産党の胡耀邦総書記来日。中曽根首相と会談、昭和天皇と会見、衆院本会議場で演説。（『神奈川年鑑1983』）	10. 24 県高校教育問題協議会の選抜制度検討委は、現行の神奈川方式といわれる選抜制度の手直しを盛り込んだ中間報告をまとめた。（『神奈川新聞』）		9. 7 牛頭骨を使用したものでは日本最古とみられる祭祀遺跡が横須賀市夏島で発掘。雨ごいの儀式が行われていた遺跡で、古墳時代にさかのぼる。（『神奈川新聞』）	
11. 28 ミスペースシャトル「コロンビア」がケネディ宇宙センターから打ち上げられる。（『神奈川年鑑1983』）	10. 27 県衛生部は、厚生省が58年精神衛生調査に対し全国初の検査拒否宣言を行った。（『神奈川新聞』）		9. 17 大阪で行われた第58回全日本テニス選手権の女子シングルス決勝で、横浜市立瀬谷中3年、雉子牟田明子選手が優勝、史上最年少の女王となった。（『神奈川新聞』）	
12. 18 第37回衆議院議員総選挙（『神奈川年鑑1983』）	11. 22 10回目の六都県市首脳会議（首都圏サミット）が横浜で開かれ、緑化対策で共同キャンペーンを行うことで一致した。（『神奈川新聞』）		9. 20 都市の緑の保全、創造を目指す「かながわ都市緑化推進協議会」が設立された。（『神奈川新聞』）	
			10. 18 第2回の「かながわ環境文化賞」の受賞は「箱根博物会」（松浦正郎会長）と決まり発表された。神奈川新聞社と横浜銀行の主催。（『神奈川新聞』）	
			11. 4 横浜誘致が決まった運輸省航海訓練所の練習帆船日本丸が横浜港大棧橋に寄港。（『神奈川新聞』）	
			12. 9 来日した中国残留孤児の肉親対面調査が始まり、黒竜江省在住の女性は、名乗り出ている横浜市民の女性の妹であることが確認された。（『神奈川新聞』）	
			12. 14 県下で最大の公募展、第19回県美術展の入賞者が発表された。大賞には彫刻の井上麦の「土の系譜」と書の茶木静谷の「竹聲松影」が選ばれた。（『神奈川新聞』）	
			12. 21 県民の人気投票を募っていた「かながわの史話100選」が決まり県から発表された。（『神奈川新聞』）	

国内・国際	政治・行政	財政・経済	社会・文化	その他
1. 18 三井有明鉱火災事故(『神奈川年鑑1984』)	2. 7 県59年度当初予算案は、一般会計が初の1兆円となり、改定新神奈川計画を推進するため、福祉、教育、みどりに重点が置かれた予算編成。(『神奈川新聞』)	2. 22 公正証書原本不実記載、同行使の罪に問われたシルクホテル前社長に対し横浜地裁は懲役1年6月、執行猶予4年の有罪判決。(『神奈川新聞』)	1. 18 「核のない神奈川をめざす県民連絡会」が発足。「非核県宣言」の実現を目指し、百万県民署名集めなどに取り組むことを決めた。(『神奈川新聞』)	3. 5 逗子市・池子弾薬庫への米軍住宅建設計画について、同市の三島虎好市長は条件付きの受け入れを公式に明らかにした。(『神奈川新聞』)
2. 9 ユーリ・アンドロポフソ連共産党書記がに死去。(『神奈川年鑑1984』)	3. 23 「日の丸」掲揚の機会を増やすよう求める決議が、県本会議で賛成多数で可決。(『神奈川新聞』)	4. 23 横浜市の「みなとみらい21」事業の推進・調整に当たる第三セクターの社長に前国鉄総裁の高木文雄の就任が内定。(『神奈川新聞』)	2. 15 訓練帆船の2代目「日本丸」の進水式が住友重機工業浦賀造船所で行われた。(『神奈川年鑑1984』)	4. 5 逗子市・池子弾薬庫への米軍住宅建設に反対している市民グループが、全国初の住民投票付託条例制度の直接請求(本請求)を三島逗子市長に提出した。(『神奈川新聞』)
2. 13 コンスタンティン・チェルネンコがソ連共産党新書記長に就任。(『神奈川年鑑1984』)	4. 9 横浜市行政区審議会は、分区要望の強い戸塚区を三分割するという行政区再編(分区)の素案を発表。(『神奈川新聞』)	5. 25 川崎市多摩区生田緑地内のゴルフ場返還訴訟に関して、市と川崎国際カントリー倶楽部、川崎林園会社との間で和解が成立。(『神奈川新聞』)	3. 26 「アジア・太平洋地域における平和と変革」をテーマにしたシンポジウムが国連大学、アジア平和研究会、県の共催で横浜で開かれた。(『神奈川新聞』)	5. 27 横須賀・臨海公園でトマホーク配備に対する抗議集会が4万2千人(県警調べ2万1千人)を集めて開かれた。(『神奈川新聞』)
2. 27 登山家植村直己がマッキンリー単独登頂後、行方不明に。(『神奈川年鑑1984』)	4. 16 川崎市と千葉県木更津市とを結ぶ東京湾横断道路建設計画について、水野建設相、長洲知事、伊藤川崎市長が会談。(『神奈川新聞』)	7. 27 県都市計画地方審議会は、金沢埋め立て地の新交通システム「金沢シーサイドライン」の計画を原案通り了承。(『神奈川新聞』)	3. 26 県教委、つばの上半部が人体頭部を表現している人面付土器を県指定重要文化財に指定。(『神奈川年鑑1984』)	6. 5 三島・逗子市長が防衛施設庁に、池子弾薬庫への米軍住宅建設を条件付きで受け入れると正式に回答した。(『神奈川新聞』)
3. 23 中曽根首相が訪中。中国首脳らと会談。(『神奈川年鑑1984』)	6. 15 建設省が中津川上流に計画している宮ヶ瀬ダム建設で、ダムサイトの愛甲郡愛川町住民との補償交渉が全面解決。(『神奈川新聞』)	7. 28 リッカー倒産のあおりで、同社の子会社のひとつホテルリッチ横浜が横浜地裁に和議申請。(『神奈川新聞』)	5. 16 県の代表的地場産業「箱根寄木細工」と「小田原漆器」が伝統的工芸品の通産大臣指定を受けた。(『神奈川年鑑1984』)	6. 14 核巡航ミサイル搭載可能な米原子力潜水艦が横須賀米軍基地に入港。(『神奈川新聞』)
4. 26 レーガン米大統領が訪中。(『神奈川年鑑1984』)	7. 1 川崎市が市制施行60周年を迎えた。(『神奈川新聞』)	9. 27 横浜駅西口のダイヤモンド地下街がザ・ダイヤモンドとして新装オープン。(『神奈川年鑑1985』)	7. 30 全国高校野球神奈川大会決勝戦で、桐蔭学園が13年ぶり2度目の優勝。(『神奈川新聞』)	6. 27 遠藤・大和市長が厚木基地の米空母ミッドウェー艦載機の夜間連続離発着訓練の中止を求める署名簿を防衛庁長官と外相に手渡した。(『神奈川新聞』)
7. 1 総理府と行政管理庁が合併し、総務庁が発足。(『神奈川年鑑1984』)	7. 5 県本会議は、長洲知事から追加提案された「神奈川非核兵器県宣言」を賛成多数で可決。	10. 1 県が発表した7月1日現在の地価調査によると、総平均は1平方メートル当たり19万9900円で、昨年に比べ1.8%の上昇。(『神奈川新聞』)	8. 1 「新しい環境創造のために」をテーマとした84国際植生学会日本大会が横浜で結団式を行った。(『神奈川新聞』)	7. 6 逗子市・池子弾薬庫への米軍住宅建設に反対している市民団体が、三島市長のリコール運動を起こすことを決めた。(『神奈川新聞』)
7. 28 ロサンゼルスオリンピックが開幕。(『神奈川年鑑1984』)	9. 28 津久井郡津久井町会で、県下自治体では初の「ラブホテル建築規制条例」を可決した。(『神奈川新聞』)	11. 15 横浜新都市交通、金沢シーサイドラインの並木中央駅～福浦駅間の工事着工。(『神奈川年鑑1985』)	9. 16 練習帆船初代「日本丸」が約54年間、延べ183万km航海し、11,500名の実習生を育てた役目を終え、退役。(『神奈川新聞』)	8. 21 横須賀市は、52年に全面返還が決まっていた同市の米軍長井住宅地区について、艦船用の通信施設を除く"部分返還"を了承した。(『神奈川新聞』)
10. 31 インドのガンジー首相が銃撃により暗殺される。(『神奈川年鑑1984』)	10. 1 川崎市の情報公開制度が施行。同市中原区に川崎市公文書館が開館。(『神奈川新聞』)	12. 11 横浜市は市営地下鉄新横浜～横浜間と上永谷～舞岡間の開業日を来年3月14日の国鉄ダイヤ改正と同時にすると発表した。(『神奈川新聞』)	10. 27 横浜市大倉山記念館が開館。(『横浜市大倉山記念館概要』)	9. 21 パプロフ駐日ソ連大使が長洲知事に「神奈川非核兵器県宣言を高く評価する」という本国政府からの親書を手渡した。(『神奈川新聞』)
11. 22 第6回訪日中国残留孤児の第1陣45人が来日。黒竜江省東寧の孤児が、横浜市の会社員の弟であることが判明。(『神奈川新聞』)	10. 4 横浜市立の小・中学校の一部で、57年度に児童・生徒数を"水増し"、文部省の基準以上の学級編成をしていたことがわかった。(『神奈川新聞』)	12. 24 酒類卸販売業中山恒三郎商店は、横浜地裁に会社更生法による会社更生手続の申立をし受理される。(『神奈川年鑑1985』)	11. 3 川崎市は市政60周年を記念して川崎市民の歌「好きです かわさき 愛の街」を発表。(『川崎市ホームページ』)	9. 26 夜間飛行差し止めと損害賠償を求める厚木基地騒音訴訟第二次原告団が結成。(『神奈川年鑑1984』)
12. 19 イギリスと中国が1997年7月に香港返還で合意。(『神奈川年鑑1985』)	11. 1 県都市計画地方審議会は、横浜川崎広域都市計画圏、県央広域都市計画圏の市街化区域・調整区域の線引き見直し案を原案通り承認。(『神奈川年鑑1985』)			10. 17 藤沢市片瀬で米軍ヘリコプターが墜落、乗員の米兵2人が負傷した。(『神奈川新聞』)
12. 26 レーガン米大統領、ソ連軍のアフガニスタンからの早期撤退を呼びかけ。(『神奈川年鑑1985』)				10. 22 厚木基地の周辺6市の住民が国を相手取り、夜間飛行の禁止と損害賠償などを求める第二次厚木基地爆音訴訟を横浜地裁に起こした。(『神奈川新聞』)
				11. 12 逗子市長選で、池子弾薬庫への米軍住宅建設阻止を主張した富野暉一郎=無所属=が、前市長を破って初当選した。(『神奈川新聞』)
				12. 10 米原子力空母カールビンソン(81,000ト)が、横山横須賀市長、市民グループなどの反対を押し切って、横須賀基地に初寄港した。(『神奈川新聞』)